

臨床研究に関するご協力のお願い（情報公開：オプトアウト）

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、過去の診療記録（電子カルテなど）に記録されている情報のみを用いて行われるもので、患者様に新たな検査や通院をお願いすることはありません。

ご自身の情報を研究に使ってほしくないと思われる方は、いつでも拒否することができます。その場合でも、今後の診療において不利益を受けることは一切ありません。

1. 研究の名称

胃がんにおける細胞接着タンパク質の発現に関する研究

2. なぜこの研究を行うのですか？（研究の目的）

「がん」は生物を構成するさまざまな細胞が、自律的に増殖し、既存の組織を破壊するような異常をきたした状態です。近年、多くの研究者の長年にわたる取り組みにより、がんで異常に発現する特定のタンパク質を標的にした抗体を用いてがん細胞を除去する治療が臨床現場で多く利用できるようになっています。このような治療薬を分子標的薬と呼び、これらの薬を用いて行う治療を分子標的療法と呼びます。

さまざまながんに対する抗体薬を中心にした分子標的療法は、長足の進歩を遂げ、病院においてさまざまな抗体薬が利用されるようになってきています。胃がんの患者様に対しては、2024年に細胞と細胞を繋げる細胞間接着装置であるタイト結合を構成するタンパク質claudin18.2を標的とした抗体薬であるzolbetuximabが、治療薬として認可され、胃がん患者様の新しい治療選択肢となっています。このZolbetuximabの成果から、現在、細胞接着に関わるタンパク質が、治療標的として有望であると認識されつつあるのです。

この研究では、すでに保管されている胃がん患者様の切除病理検体を用いて、がん細胞がどのような細胞接着に関わるタンパク質を発現しているのか、がん細胞がどのような構造をしているのかを明らかにします。そのための方法として、特定のタンパク質を認識する抗体を用いて、それらのタンパク質の細胞での発現を確かめる免疫組織化学を行い、それらの発現を詳細に観察・評価します。また、病理検体から膜タンパク質を中心に抽出してプロテオーム解析を行います。さらに、通常の顕微鏡では観察することのできないがん細胞の特徴を観察するために、電子顕微鏡を使った観察と解析を行います。そして、正常な胃組織の結果と比較することで、治療標的となりうるタンパク質を明らかにし、新たな治療法に繋げることを目指します。

3. どのような人が対象になりますか？

対象となる方：2017年1月1日から2024年12月31日までに、当院で胃を手術によって切除され、胃がんと診断された方

研究期間：2026年7月14日 ～ 2030年3月31日まで

4. どのような情報を使用しますか？

診療情報（詳細：既往歴、治療歴、血液学的検査、血液生化学的検査、画像検査(CT検査、PET-CT検査、レントゲン検査)、切除材料の病理組織診断および診断に用いた免疫組織化学、手術、検査等で採取した組織（対象臓器等名：胃がんおよび付属する非腫瘍性胃組織）

5. プライバシーはどのように守られますか？

お名前やカルテ番号などの個人を特定できる情報は、収集時に削除し、代わりに研究用の番号を割り当てて管理します（匿名化）。

データは病院内の専用パソコンに保存し、外部に持ち出すことはありません。また、研究成果を学会や論文で発表する場合も、統計的なデータとして扱うため、患者様個人が特定されることは決してありません。

6. 研究への協力を拒否したい場合は？

この研究にご自身の情報を使用してほしくない場合は、下記の連絡先までお申し出ください。その場合でも、診療上の不利益を受けることはありません。

※既に解析が終了し、研究結果が公表されている場合は、完全に削除できないことがあります。

<問い合わせ先>

当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ

〒070-8530

旭川市曙1条1丁目1番1号

旭川赤十字病院 病理診断科 上小倉 佑機

TEL：0166-22-8111、FAX：0166-24-4648